

社会福祉法人さぽうと 21

2019 年度 事業報告書



「さぽうと 21 は何でも相談できる自分の実家のような場として背中を押してくれた」

1979 年 11 月 24 日、当法人の前身団体である「インドシナ難民を助ける会」(現 AAR Japan [認定 NPO 法人 難民を助ける会]) が発足しました。日本で暮らす難民とその家族、これまで支えてくださった両団体の支援者の皆さまや新旧のボランティアの方々、メディア関係者など、100 名以上が集い、旧交を温めました。

(開催日 : 2019 年 11 月 17 日 (日) / 会場 : 日本青年館ホテル)

社会福祉法人さぽうと 21



〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

TEL : 03-5449-1331 ・ E-mail : info@support21.or.jp

URL : <http://support21.or.jp/>

目次

2019 年度 事業概要	1
I. 生計困難者に対する生活援助事業	2
1 <u>自立支援事業</u>	
(i) 生活支援プログラム	2
(ii) 坪井一郎・仁子学生支援プログラム（通称：坪井基金）	3
(iii) パチンコ・パチスロ奨学金（略称：pp 奨学金）	4
(iv) <u>夏期研修会：外国にルーツをもつ学生の『働き方』発見セミナー</u>	5
(vi) <u>外国にルーツのある学生のためのキャリア支援</u>	6
2 <u>学習支援室事業</u>	
(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援	8
(ii) 学習支援室関連の行事等	9
(iii) <u>委託事業、助成金事業等の実施</u>	10
II. <u>生計困難者に対する相談事業</u>	12
III. <u>緊急支援</u>	12
IV. <u>広報活動</u>	
1 <u>インドシナ難民受け入れから 40 年 日本で学び、働く私たち</u>	13
2 <u>世界の国旗・国歌コンサート</u>	14
3 ニュースレター、広報物の作成・改訂	15
4 ホームページの更新	15
5 外部での活動報告	15
6 パートナリシップ・イベント	16
V. <u>団体 / 企業によるご協力</u>	16
VI. <u>役員一覧</u>	17

社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

2019 年度 事業概要

今から 40 年前の 1979 年 11 月 24 日、当法人の前身である「インドシナ難民を助ける会」（現 AAR Japan [認定 NPO 法人 難民を助ける会]）が発足しました。

難民支援のために日本で初めての政治・宗教・思想に縛られない、国際救援・協力を目指した市民団体のスタートでした。以後、日本が受け入れた難民（インドシナ難民・条約難民・第三国定住難民）をはじめ、日系定住者及び中国帰国者の子弟等にも支援の枠を拡げ、主に教育面からの支援を続けています。

事業継続にあたり、本年度ものべ 568 名・198 社の方々に、ご協力を賜りました。活動の充実にご賛同、ご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

以下に主な事業の概要をご報告いたします。

■ 自立支援事業（生活支援金の支給）

前身団体より継続してきた「生活支援プログラム」の方向性や支援対象について見直し、本年度は継続して支援を希望する学生を中心に「生活支援プログラム」及び「坪井基金」で、計 33 名を支援した。また HSBC グループが提供する助成事業により、難民などの外国にルーツのある若者のキャリア支援につながる活動を充実させることができた。2017 年度に発足した日本人(元外国籍含む)、永住者の在留資格をもつ学生を対象とする「p p 奨学金（パチンコ・パチスロ奨学金）」では、計 37 名を支援した。

■ 学習支援室事業（学習支援室の運営）

ボランティアのご協力のもと、目黒教室(土曜日)と、東部教室(日曜日)で、日本語や学校教科の補完等を中心に、学習の場を提供した。しかし新型コロナウイルス感染拡大により、2 月末から両教室の休室を余儀なくされた。委託事業では、文化庁の「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」の他、新たに「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を受託し、「難民等に対する日本語教育に携わる人材養成のための研修開発事業」に取り組んだ。また柳井正財団（ファーストリテイリング財団）及び明治学院大学との協働事業である「集中学習支援教室」を、本年度も春、夏の長期休暇に実施した。

縁あって日本で暮らすことになった難民などの外国出身者のより良い定住に向け、活動を続けてまいりますので、引き続きご支援の程、よろしくお願い致します。



I. 生計困難者に対する生活援助事業

1. 自立支援事業

(i) 生活支援プログラム

① プログラム概要

*プログラム見直しのため、本年度は継続支援を希望する学生の他、若干名のみ公募。

高校や大学、専門学校に在籍する難民（インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、「生活支援金」を支給する。

② 支給状況

本年度も継続して支援を希望する学生 26 名を中心に、当法人役員による書類・面接審査を行い、以下のとおり 24 名を支援した。支援金は 2 か月に 1 度、銀行振込にて支給した。

■ 支給者数：24 名 ※ 1 名は 6 月より支給開始

■ 支給期間：2019 年 4 月 ～ 2020 年 3 月

■ 支給総額：3,280,000 円／年額（1 名あたり 10,000 円 ～ 25,000 円／月）

学校種別	人数	出身国 / ルーツのある国
高校	10 名	ベトナム：4、ブラジル：2、中国：2、ペルー：1、シリア：1
専門学校	1 名	ベトナム：1
大学	13 名	ベトナム：7、中国：2、ペルー：2、カンボジア：1、ミャンマー：1

（※ ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載）

③ 受給者（生活支援生）への対応

i) 個人面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）にて、役員による個人面談を行った。学業の様子や、進路希望、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。事務局内でケースシェアを行い、別途対応が必要と思われる支援生に対しては、個別対応を行った。

ii) 支援生との定期連絡（隔月）

支援生との関係づくりや、進学や就職に役立ちそうな情報を提供する目的で、支援金振り込みの際に連絡を取った。葉書やメールの正しい書き方を習得してもらうため、高校生には葉書、専門学校生及び大学生にはメールにて近況報告をしてもらった。

iii) 課題エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また支援生の関心などを理解することを目的に、エッセイ（800字程度）の提出を義務付けた。本年度は、①一番記憶に残った今年の出来事、②ルーツについて、③卒業後/来年の目標、いずれかを執筆してもらった。

(ii) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）

① プログラム概要

東洋熱工業株式会社からの株主配当金をもとに、主に理系専攻の大学3年生以上、大学院生の難民（インドシナ難民、条約難民、第三国定住難民）や、日系定住者及び中国帰国者の子弟等に対し、学業推進のための「生活支援金」を支給する。

② 支給状況

本年度は、全国から21名の応募があり、同基金の委員による書類・面接審査の結果、以下のとおり、9名を支援した。支援金は毎月1度、銀行振込で支給した。

■ 支給者数：9名 ※2名は、休学(6月)と卒業(9月)のため、年度途中で支援終了。

■ 支給期間：2019年4月～2020年3月

■ 支給総額：4,650,000円／年額（1名あたり50,000円／月）

学校種別	人数	出身国／ルーツのある国
大学	4名	中国：2、ブラジル：1、ベトナム：1
大学院	修士	3名 ブラジル：1、イラン：1、ペルー：1
	博士	2名 ブラジル：1、エチオピア：1

（※ルーツのある国は、受給者数が多い順に記載）

③ 受給者（坪井支援生）への対応

i) 個人面談の実施

(iv) 夏期研修会（P.5）中に、役員による個人面談を実施し、研究への取り組み方、進路、生活状況や家族の様子について聞き取りを行った。

ii) 支援生との定期連絡（毎月）

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金振り込みの際に連絡を取った。坪井支援生には、進路選択で悩む後輩のために、受験や語学試験の勉強方法などのアドバイスも寄せてもらった。

iii) イベントの協力依頼（後輩への進路アドバイス・広報活動）

(iv) 夏期研修会（P.5）の「進路相談会」及び、IV. 広報活動（P.13）の「座談会」にて、現役の大学生・大学院生として協力を依頼した。

(iii) パチンコ・パチスロ奨学金（略称:pp奨学金）

① プログラム概要

本奨学金は、パチンコ・パチスロ業界の有志及び来店者からの募金（募玉やコインを換算）を、奨学金として充て、経済的に困難な日本人（元外国籍）及び永住者（特別永住者を含む）の在留資格をもつ学生に対し、「支援金」を支給する。

④ 支給状況

本年度は、全国から 152 名の応募があり、同奨学金の委員会（委員長＝深谷友尋理事）による書類・面接審査の結果、以下のとおり 37 名を支援した。支援金は、2 か月に 1 度、銀行振込にて支給した。※ 初回は 3 月に事前振込み

- 支給者数： 37 名（専門学校 1 名、高等専門学校 1 名、大学 23 名、大学院 12 名）
- 支給期間： 2019 年 3 月 ～ 2020 年 4 月
- 支給総額： 18,720,000 円／年額 （1 名あたり 30,000 円 ～ 50,000 円／月）

⑤ 受給者（pp奨学生）への対応

i) 支援生との定期連絡（隔月）

上述の「生活支援プログラム」及び「坪井基金」と同じ要領で、支援金振り込みの際に連絡を取り、葉書にて学業や家庭状況について近況報告をしてもらった。

ii) 「pp奨学金」総会・式典でのスピーチ

毎年、支援者に対する報告の場として式典を開催している。本年度は、支援が決定した学生のうち、代表者 6 名が、自己紹介と将来の希望についてスピーチした。

- 実施日： 2019 年 3 月 27 日（水）17 時～18 時 15 分 ※ 懇親会：18 時 20 分～
- 会 場： 国際文化会館（東京都港区六本木 5-11-16）

④ 委員会

役 職	氏 名（敬称略）
委員長	深谷 友尋
副委員長	阿部 恭久 / 小島 豊 / 韓 裕
委 員	吹浦 忠正 / 白石 良二 / 松谷 明良 / 大西 康弘 / 福井 章 岩下 博明 / 山田 久雄 / 泰 青 / 高橋 孝幸 / 伊坂 重憲 佐藤 孔一 / 星野 謙 / 岡本 芳邦 / 大野 春光 / 西村 拓郎
会 計	柳瀬 房子
監 査	日野 洋一 / 高橋 敬子
顧 問	篠原 弘志

(iv) 夏期研修会

【助成】2019年度 独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業【助成総額】2,169,000 円

① 実施目的

来日経緯や学年、出身地域の異なる支援生が交流し合い、また進学や就職など、自らのキャリア形成について考える機会として、毎年「夏期研修会」を開催している。本年度は、「外国にルーツをもつ学生の『働き方』発見セミナー」と題し、進路選択や就職活動に必要な正しい知識を得て、将来の選択肢について視野を広げることを目的に、「進路相談会」と、「仕事に役立つ基礎力セミナー」を開催した。

② 実施日時

- 実施日：2019年8月15日（木）11時～17時
- 宿泊先：AAR Japan〔難民を助ける会〕会議室（東京都品川区上大崎2-12-2）
- 参加者数：7カ国・33名（学生：高校生5名、大学生15名、大学院生5名）

③ 実施内容

i) 第1部：進路相談会



少子化や入試制度の多様化に伴い、進学率も年々上昇している。難民などの外国にルーツのある高校生の中でも、大学進学を希望する者が増えているが、親の経済状況（生活保護や非正規雇用など）や、大学・学部選びに関する情報不足など、不安の声が聞こえてくる。

そこで参加者と同じような来日経緯をもち、また現役の大学生・大学院生である（ii）坪井支援生（P.3）にスピーカーとして協力してもらい、「進路相談会」を開催した。

理系と文系で学べることの違いや、大学生活の過ごし方、英語力向上のために留学は必要なのか、奨学金の利用方法、卒業後の進路など、各々の経験をもとに話してもらった。

ii) 第2部：仕事に役立つ基礎力セミナー



2017年度の夏期研修会でもご協力いただいた、株式会社ワイズ・インフィニティより、人事の専門家を講師に迎えて「仕事に役立つ基礎力」というテーマでセミナーを開催した。働く上で必要とされる基礎スキルや、物事の考え方を養う目的で、前半は、今から5～20年後

の日本の未来を想像しつつ、自分自身や企業がどのように適応していくべきか意見を出し合った。その後、会社という組織や役割を深く掘り下げ、会社が成長する上で必要な販売とマーケティングの基本的な手法について、グループワークを通じて体感した。

iii) 個人面談の実施

個人面談は、在住外国人に対する相談や在留及び行政手続きに精通した役員計 2 名が担当した。学校生活や家族及び本人の状況、卒業予定の学生には、進路についても確認した。

④ 参加者アンケート

- ・ひとつの課題について、自分では考えてもみななかった意見を聞くことで、自分の物事を考える幅が広がった。(高校)
- ・将来就職したい企業についてもっと調べようという気持ちになった。(大学生)
- ・他のところでは聞けないような話だった。会社で失敗したらクビというイメージがとても強かったが、それを庇ってくれる人がいるところが良い会社だということを知り、ちゃんと会社を探そうと思った。(大学生)

(vi) 外国にルーツのある学生に向けたキャリア支援

【 助成 】 HSBC Future Skills High Impact Project Fund:

“Workforce Development Project for Ethnic Minority Youths in Tokyo”

※ 本助成金は、自立支援事業 及び 学習支援室事業 にも一部充当させていただいています。

① 実施目的

経済的に困難な状況にある難民などの外国にルーツのある若者が、学業を継続し、就職して自立していくために必要なスキルの獲得や、キャリア形成に結びつくような取り組みを実施する。各内容は、社会人になった卒業生や、団体・企業の協力を得ながら提供する。

② 実施内容

i) 外国にルーツのある大学生向け「就活」事前研修の実施



日本の就職活動の波にうまく乗れない学生や、業界研究や自己分析が不十分なまま就職し、その後転職を繰り返す学生などから相談が寄せられてきた。

(iv) 夏期研修会 (P. 5) でも協力を依頼した、人事の専門家を講師に迎え、就職活動に備えて業界や会社の構造を理解し、視野を広げることを目的に研修を開催した。グループワークも交え、主体的に参加できることを目指した。

■ 各回内容

第1回)学生と社会人の違い、第2回)興味がある業界の分析、第3回)会社が生き残るために考えること、第4回)会社が人材について考えること、第5回)個別 就職相談会、第6回)研修のまとめ ※ 新型コロナウイルスの影響で中止

■ 参加者数 : 延べ 5 カ国・19 名 (大学生、既卒者)

■ アンケート

- ・会社の中身など、学校の授業では聞けないような話が沢山聞いた。
- ・自分が考えていた就活とは違う部分が沢山あり、研修を通して様々な観点から会社を考えることができるようになった。
- ・会社名だけで判断していたので、業界での立ち位置などを自分で分析するのがとても楽しかった。
- ・エントリーシートについてのアドバイスが的確で、すごく改善できた。
- ・大学院卒業して入った会社は、学んだ知識を生かせなかったもので、企業を分析して就職活動することが大切と知った。

ii) 資格取得の応援

就職や進学に活かすことのできる資格試験 (英検・TOEIC・TOEFL・日本語能力試験) の受験料を支援する「キャリア支援制度」を、本年度も継続した。

■ 支給者数 : 延べ 15 名 (高校 7 名、大学 4 名、大学院 2 名、既卒 2 名)

■ 支給総額 : 72,750 円 (英検準 1 級・2 級、TOEIC・日本語能力試験 N1・N2)

iii) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

■ 支給者数 : 4 名 (大学 4 名)

■ 支給総額 : 120,000 円 (1 人あたり 30,000 円)

■ 業 種 : サッカークラブチーム、メーカー (IT・化学)、人材派遣 など

2. 学習支援室事業

(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援

【助成】2019 年度 東京都在住外国人支援事業助成 / 【助成総額】1,262,523 円

【助成】一般財団法人柳井正財団/一般財団法人ファーストリテイリング財団

「難民対象の学習支援室 (東部教室)」/【助成総額】950,868 円

① 概要

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。ミャンマーにつながる方々が受講者の大半を占めているが、アフガニスタン、ウガンダ、エジプト、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリアなど、他の地域出身者の参加も増えつつある。錦糸町教室も、東京都東部地域や埼玉県、千葉県在住の難民等も通いやすい環境にて引き続き学習支援を継続実施している。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の状況下、2月末より、目黒、錦糸町の教室ともに休室を余儀なくされた。

② 実施状況

■ 開催期間：2019年4月1日 - 2020年3月31日

1. 目黒教室：毎週土曜日 10時～18時（必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した）
2. 錦糸町教室：毎週日曜日 13時～17時

※ 錦糸町教室の運営費は、一般財団法人柳井正財団（年度途中より一般財団法人ファーストリテイリング財団）より助成を受けて運営している

■ 開催場所：

1. 目黒教室：さぼうと21事務所会議スペース
2. 錦糸町教室：ROOMS 錦糸町（東京都墨田区錦糸1-14-7ティックハウス）

■ 開催回数：78回（目黒44回、錦糸町34回）

■ 受益者数：2,457名（のべ）

■ 稼働ボランティア数：2,004名（のべ）

■ 登録受講者数：約100名（うち今年度新規登録39名）5歳～60歳代

* 国籍：大半はミャンマー（ビルマ）が占め、それ以外は各国数名（アフガニスタン、ウガンダ、エジプト、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア他）

■ 登録ボランティア講師数：約100名（うち今年度新規登録35名）

* 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

■ 進 学

都立高校 11名（ミャンマー10名、コンゴ民1名）

大学 7名（ミャンマー4名、エジプト1名、コンゴ民1名、シリア1名）

高校卒業後就職 1名（ミャンマー1名）

■ 日本語能力試験

N1 合格 3名、N2 合格 2名

【 クラブ活動など 】

ボランティアや学習者が自主的に実施運勢するイベントが行われている。

「さぼうとカフェ」が活動する他、クラフトづくり、フットサルも有志により実施。

※例年実施している3月の「学習発表会」は中止となった

(ii) 学習支援室関連の行事等

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、様々な行事を実施。

(敬称略)

4月	26日～	■ 大正大学より実習生の受け入れ2名（～7月まで）
6月	29日	■ SHRET 企画「大学生とお出かけしよう」（参加者7名+SHRETメンバー8名） ■ フットサル体験交流交流（参加者21名）
7月	6日～	■ 中高生向けWS「ちょっと知りたい「ハタラク」ということ」 （参加者15名+IBM有志5名9） ■ セタ短冊 作成（さぼうと21事務所にて展示）
	27日～	■ 明治学院大学（心理学部）より実習生の受け入れ2名（～10月まで）
8月	7月25日～ 8月23日（計20日間）	■ 小中高生向け「夏休み集中学習支援教室」実施（参加者：54名） 〔共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学〕 ※助成金事業
	10日	■ フットサル交流試合（参加者：18名） （ソルベイススペシャルティポリマーズジャパン株式会社 有志チーム）
9月	21日	■ モヒンガー料理教室（参加者：27名）
	28日・29日	■ グローバルフェスタ参加（展示、飲食ブース出展）
11月	23日	■ フットサル交流試合（参加者：10名） （ソルベイススペシャルティポリマーズジャパン株式会社 有志チーム）
12月	7日	■ 第1回ボランティア情報交換会情報交換会 ■ ボランティア勉強会「小学校にいる外国ルーツの子どもたち」 参加者：19名 講師：島田 裕子（元江戸川区立葛西小学校日本語学級主任教諭）
	21日	■ としわすれランチ（企画実施：カフェプロジェクトチーム）
1月	4日～	■ 書き初め（さぼうと21事務所にて展示）
	11日	■ お餅を食べよう会
	18日	■ ボランティア・新年顔合わせ会（参加者：46名）
2月	1日	■ 第2回ボランティア情報交換会 ■ ボランティア勉強会「高校での学習支援を考える」参加者：16名 講師：小川 郁子 （東京都立一橋高校 JSL 取り出し講師、北区学び場 Let's Study 運営）
3月	26日～4月3日 （計6日間）	■ 中高生向け「春休み集中学習支援教室」実施（参加者：15名） 〔共催：一般財団法人ファーストリテイリング財団〕 ※助成金事業 ※新型コロナウイルス感染拡大の状況下、新中3、高1、日本語N2受験者、大学受験予定者に限定して縮小開催とした



東京都助成事業で行われた「情報交換会」

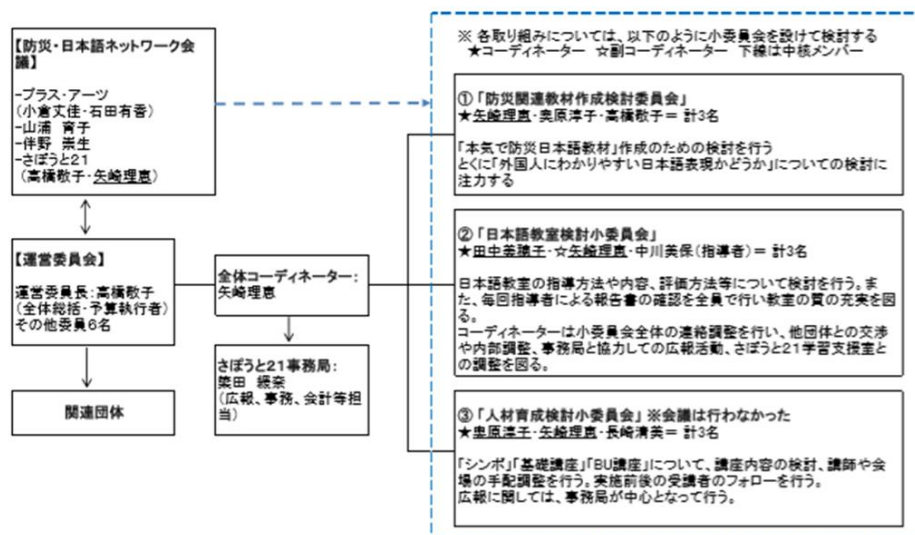


恒例となった「モヒンガ（ミャンマー麺料理）」料理会

(iii) 委託事業、助成金事業等の実施

① 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム(B)」

文化庁の助成を受け、今年度も『生活者としての外国人』のための日本語教育事業を実施。2019年度は、「外国人住民と日本人住民が本気で「防災」に取り組むための日本語教育展開事業」をテーマとして掲げ、地域日本語教室を単に外国人住民が日本語を学ぶ場ではなく、外国人住民の防災学習の拠点としてとらえ、(1)「本気で防災紙芝居型日本語教材」の作成、(2)「体験を通して学ぶ導入期の日本語教室」「生活力向上のためのワークショップ」の実施、(3) 地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修「活動基礎講座」（※一部「拡大版講座」として実施）、公開シンポジウム「外国人住民と防災」の実施に取り組んだ。



■ 実施期間： 2019年5月 - 2020年3月

■ 事業決算額：2,580,472円

② 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

文化庁の助成を受け、今年度新たに、「難民等に対する日本語教育に携わる人材養成のための研修開発事業」に取り組んだ。(1) 難民等の背景をもつ日本語学習者が有用性を感じられる日本語教育を行うことのできる人材を養成すること、(2) 難民等の自立支援団体の知見を活かして、難民等の背景をもつ日本語学習者を多視点から理解し、対人援助としての日本語教育の姿勢をもった人材を育成すること、(3) 日本語教師のみならず、より多くの方々に、日本国内外の難民問題に対して関心をもってもらうこと を目標として掲げ、「既存の難民対象の日本語教育に関する調査」、「研修の実施」、「教材作成」等に取り組んだ。2年間事業であることから、2020年度事業終了時まで、カリキュラム開発、教材作成を完了する予定である。

■ 実施期間： 2019年5月 - 2020年3月

■ 事業決算額：2,532,898円（未確定）

③ 難民の小中高生を対象とした「集中学習支援教室」

2016年夏より一般財団法人 柳井正財団（現在は一般財団法人ファーストリテイリング財団に移行）の助成、明治学院大学「内なる国際化プロジェクト」の協力により、長期休暇を利用した集中学習支援教室を夏休み、春休みに実施している。小中高生の日本語力や学力の向上、あわせて学習習慣を身につけ、家庭内での自立学習ができるようになることを目的としている。毎週の学習支援室への参加、集中学習支援教室の参加により、彼らの進学、就職の選択肢が広がることを目指している。2019年度の夏休みは武蔵野大学神吉宇一ゼミのご協力により、武蔵野大学にて小学校3年生、4年生も参加した。

■ 開催期間： 2019年7月25日 - 2018年8月23日（夏休みの間、計20日間）

2020年3月26日 - 2020年4月3日（春休みの間、計6日間）

■ 開催場所：明治学院大学白金キャンパス内、武蔵野大学有明キャンパス内、
目黒さつきビル

■ 受講者数：夏休み：54 春休み：15名

（国籍：ミャンマー、アフガニスタン、エジプト、コンゴ民主共和国、シリア等）

■ 学習科目：日本語（国語）、数学（算数）、理科、社会、英語、小論文、社会総合等

■ 共 催：一般財団法人 ファーストリテイリング財団

明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト

■ 事業決算額：4,616,055円（夏：3,843,142円、春：772,913円）

※春休みは新型コロナ感染拡大の状況下、新中学3年生、新高校1年生、日本語N2受験予定者、大学受験予定者に限定しての縮小開催であった

Ⅱ. 生計困難者に対する相談事業

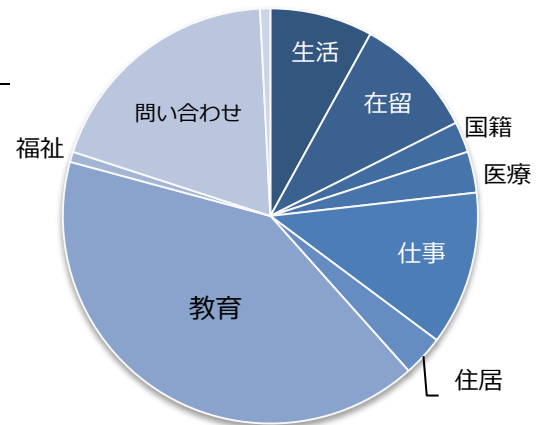
① 概要

原則として、日曜祝日を除く 10 時～17 時に、電話、面談、E メール、ホームページの問い合わせフォームより、各種相談を受け付けた。

② 実施状況

本年度は、以下のような相談が寄せられ、必要に応じて行政や関係団体などへの橋渡しも行った。また月 2 回、事務局長及びスタッフ間でケースシェアを行った。

件 数	125 件（ 対応回数 141 回 ）
地 域	23 カ国 2 地域 アジア 9 カ国 1 地域、アフリカ 5 カ国、中東 4 カ国 1 地域、中南米 3 カ国、北米 1 カ国、欧州 1 カ国



種別	件数	主な内容
生活一般	10 件	家族関係、各種料金の支払い など
在留関係	12 件	在留資格、難民申請関連 など
国籍・戸籍	3 件	帰化申請について
医療関係	4 件	医療機関について、病院同行 など
仕 事	15 件	就職活動、アルバイト、社会保険 など
住 居	4 件	公営住宅申込み
教 育	51 件	日本語教室、生活支援プログラム、進路相談、就学資金 など
福祉	1 件	生活保護、生活の困窮 など
問い合わせ	24 件	取材、ボランティア希望 など
その他	1 件	

Ⅲ. 緊急支援

緊急支援事業

経済的あるいは健康上の問題などを抱えながらも、行政機関や他の支援団体から援助を受けられない難民などの外国出身者に対し、人道的な立場から、緊急的に金銭の貸付や支給を行う。本年度は該当者なし。

IV. 広報活動

1. 座談会：インドシナ難民受け入れから40年 日本で学び、働く私たち

【助成】2019年度 独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業【助成総額】2,169,000 円

① 実施目的

日本のインドシナ難民受け入れから40年を機に、「座談会－日本で学び、働く私たち－」を開催した。日本を第二の祖国として学び、働く難民当事者と二世・三世に登壇してもらい、今後日本の地域社会が、難民をはじめとする定住外国人の受け入れにどのように寄与していくべきかを考える機会とする。

② 実施日時

- 実施日：2019年11月17日（日）15時～17時 ※ 同窓会：17時15分～
- 会場：日本青年館 カンファレンス・ルーム イエロー（東京都新宿区霞ヶ丘町4-1）
- 来場者数：127名（難民当事者と子弟、関係団体、メディア関係者、支援者など）

③ 実施内容

過去に就学支援や学習支援を受け、社会人として活躍する4人の登壇者に、日本語の習得や、まだ生活に慣れない中での受験、学校での友人関係や就職活動の際に感じた外国籍であることの大変さ、これからの日本社会に期待することなどを、それぞれの目線で語ってもらった。

司会：長 有紀枝（認定NPO法人難民を助ける会 [AAR Japan] 理事長）

登壇者（敬称略）



レー・バン・トゥ
（男性/ベトナム出身）



リア・チン・ラム・マン
（女性/ミャンマー出身）



グエン・タット・トルン
（男性/ベトナム難民三世）



レー・ティ・ニャット・クイ
（女性/ベトナム難民二世）

レー・バン・トゥさん：

1989年にベトナムを脱出し、シンガポールの難民キャンプを経て来日。現在はIT関係の会社を経営。AARの太陽塾で学びながら大学受験に挑戦した当時の思い出を熱く語ってくれた。日本の多文化共生を担うお子さんの教育にも力を注いでいる。

リア・チン・ラム・マンさん：

大学在学中に学生運動に参加。来日後、条約難民として認定され、大学に進学。通訳兼相談員として難民の人々を支援している今でも、さぼうと21の学習支援室で、専門用語の習得などに努めている。学習支援室は、何でも相談できる実家のような場所。

グエン・タット・トルンさん：

日本生まれのインドシナ難民三世。サイゴン陥落後、ボートピープルとしてベトナムを脱出したご家族のこと、小・中学校でのいじめ、目標を見出した高校時代など、宇宙開発の立場から地球の環境保護を目指すという今のお仕事に至るまでの経験を語った。

レー・ティ・ニャット・クイさん：

ボートピープルである父親の呼び寄せにより、小学生の時に来日。大学院での研究を生かして食品メーカーに勤めている。世界の食糧供給の安定化を目標にしつつ、将来は祖国ベトナムなどの新興国に日本の技術を伝え、人材育成に貢献したいと語った。

④ 参加者アンケート

- ・ 難民を助ける会との出会いは、私の日本語教師としての原点です。その思いが昔と一つもかわっていないことが確認できて嬉しく思った。
- ・ レーバントゥさんの自由を求めて難民として来日したということと、二世となる子どもとのやりとりの話が特に印象に残った。勉強できる自由、発言できる自由を享受している私たちこそ、その大切さを改めて考える必要がある。
- ・ 難民の方々の苦労を聞き心苦しくなった。日本人は恵まれていてハングリー精神がなくなっているなど感じる。他国の人に対し、多くの人の善意があればいいと思った。

2. 世界の国旗・国歌コンサート【臨時のその他の事業として主催】

当日は、新型コロナウイルスの影響があったものの、追加公演も含めて1000名近い方々にご来場いただきました。コンサート開催にあたり、ファースト・パシフィック・キャピタル様をはじめ、多くの方々からご寄付及びチケット代を頂戴し、約100万円の純益がございました。今後の事業運営費に充てさせていただきます。

① 実施目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピックを前に、国際理解の第一歩である、国旗と国歌を通じて友好・親善を増進することを目的に開催する。

② 実施日時

- 実施日：2020 年 3 月 1 日（日）開演 14 時～ / 【追加公演】同日 開演 18 時～
- 会 場：紀尾井ホール（東京都千代田区紀尾井町 6-5）

[協賛] NPO 法人世界の国旗・国歌研究協会 / NPO 法人演奏環境創造ネットワーク

[後援] 外務省 / 東京都 / 公益財団法人日本オリンピック委員会

[協力] 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

3. ニュースレター、広報物の作成・改訂

広報誌『Newsletter』を、本年度は 3 回発行した。各号は、会員・寄付者、行政や関係団体、CSR 活動に取り組んでいる企業など、約 700 部／回に発送した。



また新規支援者を獲得する目的で、当法人の就学支援や学習支援に関わる難民当事者や、ボランティアの声を掲載したリーフレット（左図）と、パネル 2 点（右図）を作成した。

既存の活動紹介パンフレット『難民だった僕は、日本人として働いています』の内容も一部改訂した。

4. ホームページの更新

当法人の活動や、難民などの外国出身者の状況についての周知、また外国出身者への情報提供を目的に、主に新着情報を更新した。

5. 外部での活動報告

学校や団体、公的機関などからの依頼により、事務局長や現場で働くスタッフが、活動報告や難民等の定住外国出身者の置かれている状況について報告した。

5 月	都立田柄高校（29 日）
6 月	四街道市立四街道中学校（18 日）
7 月	楽天株式会社（17 日）
9 月	私立京華高等学校（25 日）
1 月	長崎県立南山高等学校（31 日）
2 月	私立東京家政学院中学校（17 日）

6. パートナースhip・イベント

姉妹団体の AAR や、NPO 法人なんみんフォーラム (FRJ) などと協力し、行事の共催や、支援を必要とする方に関する情報の共有を行った。

また本年度は、特定非営利活動法人日本 NPO センターを通じて、楽天株式会社が実施する社員ボランティア・プログラムの連携先の一つに選ばれた。同社の社員から、広報用の写真加工や、就学支援を受ける学生の手書きエッセイのデータ化、ホームページや SNS 更新に関するアドバイスなどを受けた。



9 月：グローバルフェスタ

グローバルフェスタは、国際協力機関・団体の活動紹介の場として毎年開催されている。

学習支援室の学習者とボランティア講師が中心となり、展示と飲食のブースを出展した。

会 場：お台場 センタープロムナード（東京都 江東区）

V. 団体／企業によるご協力

1. ご寄付

株式会社一柳みどり編集室
株式会社虎屋
株式会社 Mari Company
金王八幡宮社務所
さくら株式会社
高野興業株式会社
東京スター銀行
東洋熱工業株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
むらたクリニック
有限会社タニパテントシステムズ
リコー社会貢献クラブ・FreeWill

2. イベント等へのご協力

東京都行政書士会 品川支部
明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト
楽天株式会社

AAR Japan [認定 NPO 法人 難民を助ける会]

3. 物品ご寄贈

特定非営利活動法人日本アート基金

4. 「p p 奨学金 (パチンコ・パチスロ奨学金)」 運営資金 (iii) p p 奨学金 (P. 4)

アジカル株式会社	株式会社 ABC
綾瀬遊技場組合	岐阜県遊技業協同組合
一般社団法人日本遊技関連事業協会	サンキョー株式会社
岩下兄弟株式会社	三宝商事株式会社
上野遊技場組合	石神井遊技場組合
牛込遊技場組合	新宿遊技場組合
荏原遊技場組合	杉並遊技場組合
鳳企業株式会社	タイホウコーポレーション株式会社
株式会社朝日会館	大丸商事株式会社
株式会社伊藤園	高橋金太郎
株式会社大井ニュー東京	東京都王子遊技場組合
株式会社オリンピア	東京都遊技場組合連合会
株式会社加賀屋	東京パチンコボランティア基金
株式会社カサハラ開発事業	戸塚遊技場組合
株式会社九州エース電研	都遊連第 10 ブロック協議会
株式会社三栄	トリックスターズ・アレア株式会社
株式会社山洋プレイランド	新潟県遊技業協同組合
株式会社ダイヤモンド会館	練馬遊技場組合
株式会社大善	八王寺・高尾・南大沢遊技場組合
株式会社千歳観光	光が丘遊技場組合
株式会社ひぐち	兵庫県遊技業協同組合
株式会社ビクトリア観光	ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
株式会社マルシン	深川遊技場組合
株式会社マルハン	山梨県遊技業協同組合
株式会社宮本ビル	有限会社星野商事
株式会社ミリオンインターナショナル	有限会社丸真産業

(五十音順・敬称略)

Ⅶ. 役員一覽

理事長	吹浦 忠正	ユーラシア 21 研究所 理事長、元埼玉県立大学 教授
------------	-------	-----------------------------

理事	青木 秀茂	弁護士
	垣平 通世	東北ホモボード工業(株) 代表取締役社長
	小松 博史	日本コンサルタンツ(株) インド高速鉄道推進本部 部長
	芝 一治	東洋熱工業(株) 代表取締役社長
	深谷 友尋	フシミコーポレーション(株) 代表取締役会長
事務局長	山田 寛	元嘉悦大学教授、 元読売新聞アメリカ総局長
	高橋 敬子	東京都外国人相談 相談員

監事	沼田 美穂	弁護士
	東川 レバン	レオンテック(株) 代表取締役
	水上 洋一郎	(公財)日韓文化協会顧問 元東京入国管理局長

顧問	稲岡 稔	ブールリッシュ・アストリアス・インスティテュート LLC 東京代表、 元セブソ・アント・アイ・ホールディングス 常務執行役員
	河合 弘之	弁護士
	沼田 安弘	弁護士
最高顧問	松永 知恵子	NPO 法人危機の子どもたち・ 希望 理事
	柳瀬 房子	(特非)難民を助ける会 会長

評議員	秋葉 佳子	EAP メンタルヘルスカウンセラー
	阿部 恭久	サンキョー(株) 代表取締役社長
	池上 清子	日本赤十字社 常任理事、 長崎大学大学院 教授
	大貫 康雄	(公社)自由報道協会代表理事、 元 NHK ヨーロッパ総局長
	岡田 正幸	行政書士
	寺家村 博	拓殖大学教授
	島田 貴乃	ボランティア
	高野 泰宏	(株) 高野 代表取締役
	田辺 寿夫	ジャーナリスト、元 NHK 国際局 チーフディレクター
	西原 鈴子	(特非)日本語教育研究所 理事長

(2020 年 5 月 現在 / 五十音順)